

(1) 幼児教育・学校教育

●児童生徒数【グラフ1】

・平成15年度の児童数は64,749人、生徒数は24,566人で、全国的に児童生徒数が減少傾向にあるにもかかわらず、今後10年間は、本市の児童生徒数はやや増加する見通しです。
 ・本市の各小・中学校では、小規模化と過大規模化が同時に進んだことにより、教育環境の不均衡が課題となってきました。今後も、児童生徒数の見通しなどをもとに、子どもたちの教育環境を維持、向上していくことが必要です。

●いじめ・不登校・いわゆる「学級崩壊」【グラフ2】

・いじめの発生件数は、小学校では大幅に減少しており、平成14年度には34件、中学校ではほぼ横ばいで246件となっています。減少傾向にはあるものの、潜在化していることも考えられますので、引き続き改善に向けた取組が求められます。
 ・不登校は、平成14年度に小学校295人、中学校1,167人で、いずれも増加の傾向が続いています。
 ・いわゆる「学級崩壊」は、平成14年度は小学校で10学級が該当します。

●学校生活の満足度、授業の理解度【グラフ3、4】

・総合教育センターの調査によると、学校生活を「とても楽しい」と回答した割合は、小3で56%、小5で44%、中2で25%、高2で27%となっており、類似の全国調査と比べると、本市の方が高くなっています。
 ・「授業の理解度」は、小学校から中学校で大きく低下していますが、平成5年度の調査時よりも理解度が高まっています。

●学力【グラフ5】

・「この5～6年間を考えると子どもの学力が低下、又はやや低下した」と回答した教員は、小学校で約5割、中学校で6割以上となっています。
 ・子どもに不足していると思うものとしては、「健康や体力」「読み書き計算」「考える力」が上位となっており、子どもたちの基本的な学力の向上が急務の課題となっています。

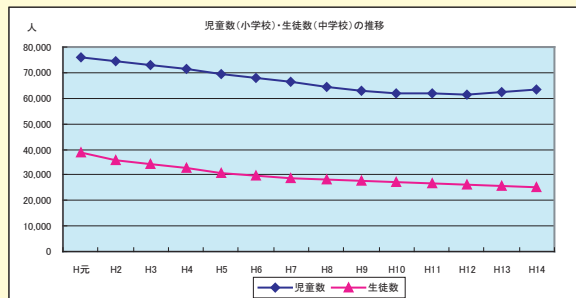
●教職員

・教職員全体の指導力の一層の向上が求められており、一部の指導力不足教員への対応が課題となっています。
 ・小・中学校の教職員については、平成15年4月から新たな人事評価システムに取り組んでいます。この制度の主なポイントは、自己目標を設定すること、5段階評価の導入、複数評価の充実、評価結果の本人への開示などとなっています。

●学校運営、地域と学校、学校評価

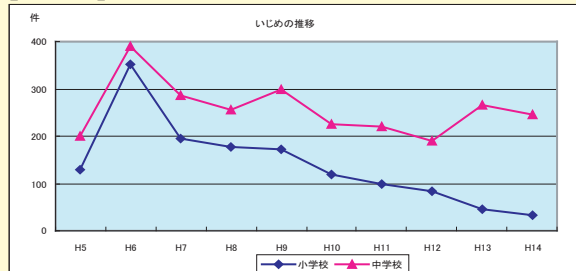
・予算や人事異動に関する校長の権限を強化するなどして、各校が創意工夫により、地域と連携しながら、特色ある学校づくりを進めることが求められています。
 ・学校評価については、各学校で取り組んできましたが、学校評価システムの検討を進めています。

【グラフ1】



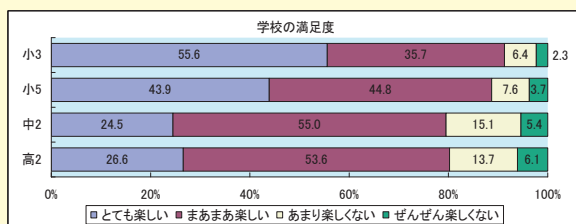
(川崎市教育委員会調べ)

【グラフ2】



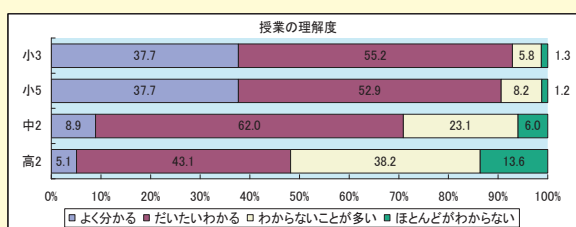
(川崎市教育委員会調べ)

【グラフ3】



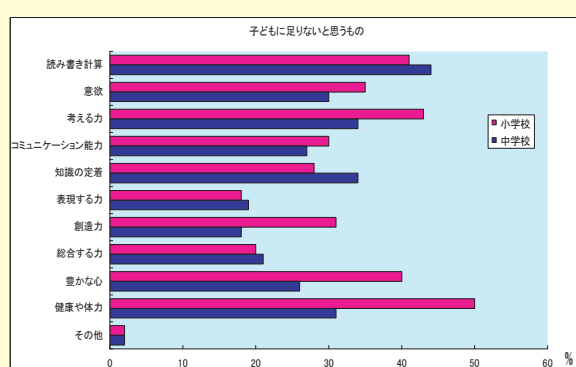
(出典)平成14年度「研究紀要第16号」
(川崎市総合教育センター)

【グラフ4】



(出典)平成14年度「研究紀要第16号」
(川崎市総合教育センター)

【グラフ5】



(出典)平成14年度「研究紀要第16号」
(川崎市総合教育センター)